

～息子のふかふか土壌づくり～

中央親子教室 終了生保護者 山口

【通所のきっかけ】

旧称 関市養護訓練センター(ようくん)に通い始めたのは3歳になる直前の頃でした。未満児で通っていた保育園のいつもの部屋に水道工事が入ることになり、1、2週間別の部屋で過ごすことになったのですが、いつまでたってもその部屋に慣れることができず、午前中ずっと泣いている…ということが何日も続きました。心配された園の先生に保健センターに相談することを勧められ電話したところ、すぐによungskunを紹介されたのがきっかけです。それまでは、1歳半健康診査で言葉の遅れを指摘されたものの、保育園の先生とも相談して様子を見ようということになり、それほど発達を心配することはありませんでした。

最初の面談で息子の様子を見てもらったとき、先生と目が合わず、他人への関心が薄いことを指摘され、通所を勧められました。通所にためらいは無かった…と思っていたのですが、『こちらにお世話になると決めるまで悩んだり葛藤があった』と過去のノートに書いてありました。結局、保育園卒園まで通わせてもらい、そんな最初の葛藤なんて忘れてしまうくらい、通所して本当に良かったと思っています。

【園との併用利用について】

最初に息子の発達について深く考えさせられたのは、ようくんの担当の先生が保育園へ訪問し、園での様子を教えてくださいときではないかと思います。

先生によると、息子は園庭にある築山の上に一人で腰かけ、交差点を通る車をずっと見ていたそうです。園の先生にもあまり心を開けていないようだ、と。本当にびっくりしました。1歳すぎからもう1年以上お世話になっている保育園で安心していたし、何よりこんなに小さいうちから人間関係の問題を抱えるものなのかと、そのときは本当に衝撃を受けました。

その後、年少に上がるときに加配の先生をつけてもらうため療育手帳を取得、病院で診断を受け、その結果をもって保育園で話し合いをさせていただきました。保育園でもきめ細かい配慮を下され、園全体で息子を見守って下さったこと、本当にありがたかったです。これもようくんから園訪問してもらえたからこそだと思います。その後も継続して園訪問して様子を教えて下さることで、安心して保育園に通わせることができました。

【現在通所している人に伝えたいこと】

今回このお話をいただき、田辺先生が我が家を訪ねて下さったとき、息子が「あの頃の母さんはオレのことを全然わかってなかった。」と言い出してびっくりしました。

ようくんはもちろん、OTに通ったり、勉強会で情報を収集したり、あの頃とにかく必死でやってきた私にとっては、すごくショックな言葉でした。

しかし、過去のノートを読み返してみても、あなたが息子の言葉は間違いではないかもしれないと思い直しました。そこにはこんな事が書いてありました。年少のときに保育園で行った東山動物園での遠足のことです。『(息子は)動物にあまり関心がなく、動物たちを見てもうすーいリアクショ

ン。おまけに大雨で水たまりにじゃぶんと入るのに夢中で、雨なのに公園の遊具で遊びたがるし、自分の好きな方にだ一っと走り、疲れたらおんぶ…。本当に最悪で悲しい日でした。』そして年中の今年は動物を見て楽しそうにしていたのが嬉しかった…と続く内容です。

今の自分なら、そこが動物園だろうが遊園地だろうが、息子はその時その瞬間に面白いと夢中になったことに全力で付き合うのに！その時の私は、動物園では動物を見るという自分の価値観を当てはめて、そうしない息子を見て辛いと嘆いていたのです。

ようくん時代の息子は発達がゆっくりでした。卒園時も三語文しか出ていなかったし、会話もほとんどかんてでなかなか通じない。筆圧が弱く、文字を書くことはおろか鉛筆を持つのも難しかったと記憶しています。ようくんや保育園の先生方と、その小さな成長を喜び合いながらも、心のどこかでは、いつも不安でした。他のお子さんと比較しては落ち込み、この先ちゃんと会話できるようになるだろうか、泣かずに親から離れて行事に参加できるようになるだろうか…と。いつも、その時ではなくその先の息子の姿を気にしすぎていた気がします。

そのため、目の前の息子と無心で遊んだり楽しいことを共有することが、息子が望むかたちではできていなかったかもしれない。彼はきつと、今この瞬間の自分を純粹に見てほしかったんじゃないかなあと、今となっては思うのです。それが証拠に息子はパパが大好きで、お風呂や着換えはパパと！という時期が長く、それはパパが今の自分をちゃんと見てくれることがわかっていたからではないかと思います。（そんな父子の姿に私は大いに嫉妬していました。）

息子の思いがけない言葉でようくん時代を振り返り、母子の思いにズレがあったかもしれないと気づけたことは幸運でした。ようくんでお世話になった先生方は、気付きながらも温かく見守って下さっていたのかなと思うと、恥ずかしい気持ちと、改めて感謝で、なんともいえない気持ちになりました。

将来を考えて知識を蓄えたり勉強することは大事だし、必要だと思います。でもそれ以上に、大人の価値観や考えは一旦置いておいて、目の前のわが子が心から楽しいと思っていることを、親も心から共有することの方が大事な時期があるのかもしれない。心が本当に満たされることで、よしやってみよう！と、次の一步に繋がるんじゃないかなあと、今は思います。

【OB 会・卒園後について】

最初に OB 会にお世話になったのは、小学校入学後 2、3 週間くらいのこと。先月卒園したのに、すぐまたようくに相談に行っていました。登下校中にトラブルを抱えてしまい、息子というよりも私の辛い気持ちを話せる場所を求めてでした。たまたま近日中に OB 会の集まりがあることを教えてもらい、先輩お母さん方に相談させてもらいました。そこで「子ども同士の関係はすぐに変化する。お互いに成長すればまた違う関係を作れるよ。」という言葉聞いて、冷静になることができました。そこから OB 会に参加させてもらうようになり、今も継続して一家で行事にも参加させてもらっています。

今まで本当に沢山の行事に参加させてもらいましたが、なんといっても我が家といえば山登りです。息子は運動が苦手な、部屋の中でひたすらプラレールか電車の本を眺めるインドア派。学

校に元気に通うためにも将来働くためにも体力は大事！ということで、必ず参加していました。最初は息子のためでしたが、気が付いたら親の方が楽しくなって、息子が親に付き合うようになっていたかもしれません。毎年山登りの係は我が家が担当させてもらい、親が率先してやる姿を見て、息子も始まりの会の司会を買って出してくれるなど、進んで自分の役割りを担当してくれるようになったのはうれしい姿でした。家族だけでも山に登りますが、やはりOB会で友達と登るのは本当に楽しそう。登るスピードもやる気も全然違います。その場で初めて会った子どもとも自然と一緒に仲間として行動できるのも山登りのいいところ。毎回、素敵な体験をさせてもらっています。

なので、我が家の場合、楽しいことを親子で真に共有できたのは小学生になってからではないかと思っています。小学校に上がってから、言葉も増え、学習面でも本人なりにこつこつ頑張る姿を見て、『ひとりひとりペースは違っても必ず子どもは成長する』という安心感が私の中に芽生えたことが大きいと思います。

ようくん時代に、親が付き合って一緒に体験することの大切さは身をもって感じていたし、障害の特性から、経験したことからしか学ばないと聞いていたので、小学校に上がってからも行けるころはできる限り付き添って、一緒にやってやろうと決めていました。先輩お母さんの姿に学んだことも大きいです。OB会の活動はもちろん、一緒に自転車に乗って電車を見に出かけたり、長良川鉄道に乗って刃物祭に行ったり、小学校の有志のパン作りや、市の俳句教室に参加したり。初めてのことが苦手な息子に、経験をプレゼントするつもりで、やるかどうかは必ず息子自身で決めてもらうようにしました。息子の興味やキャパを考えて、ちょっとがんばったらこんなことができるかも、次はどこへ行こう？と企画を考えるのは楽しく、そんな姿を見て息子も、じゃあやってみようかな と歩み寄ってくれるようになった気がします。全ての行事にトラブルなく円満に参加できたわけではなく、落ち込んだり反省もありましたが、その都度発見があり、次に繋げる材料になりました。今息子に聞いても、楽しかった思い出として蓄積されているようなので、作戦は成功したかなと思っています。

振り返ると、ようくん時代は土づくりで、目に見えないところで成長していたのかも。土づくりという地味で苦しい作業をようくんの先生方に一緒にしていただいたことは本当に大きかったと思います。ふかふかの土壌にさせていただいたおかげで、小学校時代に更なる成長を見ることができ、その姿に親も勇気づけられ、一緒に次の一步を踏み出せた気がします。